

# ブラックバス類の駆除を目的とした 刺し網の効率的利用方法

福島県内水面水産試験場 調査部  
平成13年度 事業報告書  
分類コード 19-08-22650000

部門名 水産業－内水面(増養殖)－内水面漁業－その他魚種(内水面)  
担当者 成田 薫・渋谷武久

## I 新技術の解説

### 1 要旨

刺し網は、普及性や漁獲効率の良さから、漁協などによるブラックバス類駆除事業で一般的に用いられる漁獲手法である。しかし実際の駆除事業では、ブラックバス類を対象とした漁獲経験も少ないため駆除実績が上がらないことも多い。本試験は駆除効率の向上を図ることを目的とし、刺し網の目合いの特性、設置場所、時期、時間帯によるブラックバス類の漁獲特性を明らかにした。

対象とするブラックバス類の大きさと目合い:対象とするバス類の体長が約16cmの場合1.5寸目、約21cmの場合2～2.5寸目、約27cmの場合3寸目が適切である。調査を行った秋元湖では1.5寸～2.5寸が適切な目合いであることが示された。

漁獲量の多い季節と設置場所:産卵期である6月前後の5月と8、9月に漁獲量のピークが認められた。5月は浅場(～5m)の漁獲量が極めて多かった。8月は深場(～15m)と浅場の差はあまりなかったが、9月は昼間において深場での漁獲量が多かった。

設置時間帯による漁獲:昼間は網が容易に視認されるので漁獲効率が悪いものと予想されたが、単位時間あたりの結果から差が認められなかった。

最も効率的な刺し網の使用時期、場所は、産卵期前の5月の浅場であることが示された。

### 2 期待される効果

対象とするブラックバス類の大きさに合わせて適切な目合いを選択することができる。時期別の漁獲、実施時期に応じて夜間、昼間、深場、浅場を選択できるデータを示した。これらにより計画的かつ効率的な漁獲が期待できる。

### 3 適用範囲

県内全域。ただし、内水面漁業、生態系の保全等ブラックバス類による被害、影響の及ぶ水域。

### 4 普及上の留意点

特になし

## II 具体的データ等

試験を実施した場所：裏磐梯 秋元湖

表1 漁獲試験の条件

夜間漁獲試験				昼間漁獲試験			
実施月	4,6,7,8,9,10,11月各月1回			実施月	6,7,9,11月各月1回		
設置時間	午後5時～翌朝6時(約12h)			設置時間	午前10時～午後3時(約5h)		
深場定点	水深帯	仕様(目合)	反数	深場定点	水深帯	仕様(目合)	反数
	約1~16m	ワカサギ網	1反		約1~16m	ワカサギ網	1反
		2寸	1反			2寸	1反
		3寸	1反			3寸	1反
浅場定点	水深帯	仕様(目合)	反数	浅場定点	水深帯	仕様(目合)	反数
	約1~6m	ワカサギ網	1反		約1~6m	ワカサギ網	1反
		2寸	1反			2寸	1反
		3寸	1反			3寸	1反
任意設置		仕様(目合)	反数	任意設置		仕様(目合)	反数
		1.5寸	1反			1.5寸	1反
		2.5寸	1反			2.5寸	1反

表2 刺し網の目合いと漁獲されたブラックバス類の体サイズおよび漁獲反数

刺し網 目合い	コケチバス			オオコケチバス			ブラックバス類 漁獲反数(反/1反)
	体長(平均±SD)	最大	最小	体長(平均±SD)	最大	最小	
1.5寸	16.3±1.9	24.3	13.7	15.3±1.1	18.4	13.3	24.0
2寸	20.6±2.2	26.6	16.7	21.1±1.3	22.5	19.3	12.7
2.5寸	21.8±2.5	27.6	14.1				7.2
3寸	27.3±4.4	36.1	22.0				0.67

体サイズの単位:cm

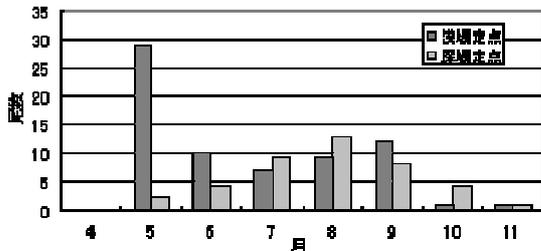


図1 設置場所とブラックバス類の漁獲反数(夜間漁獲)  
(平成13年度実施)

表3 漁獲結果

魚種	反数	%
コケチバス	318	49.9
オオコケチバス	31	4.9
ウグイ	143	22.4
ニゴイ	55	8.6
オイカワ	30	4.7
イワナ	28	4.4
ワカサギ	11	1.7
ハス	6	0.9
サクラマス	6	0.9
フナ類	6	0.9
ナマズ	2	0.3
コイ	1	0.2
合計	637	100.0

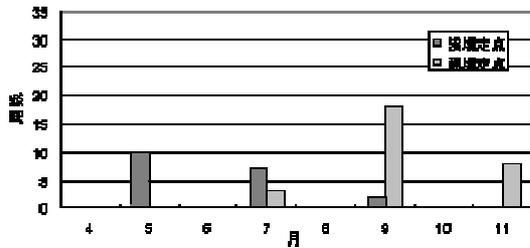


図2 設置場所とブラックバス類の漁獲反数(昼間漁獲)  
(平成13年度実施)

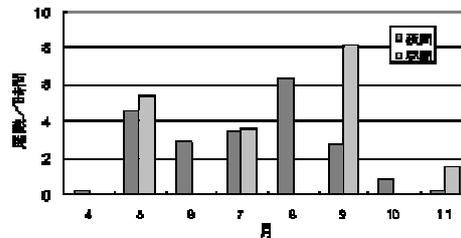


図3 夜と昼のブラックバス類の1時間あたり漁獲反数

### III その他

#### 1 執筆者

成田 薫・佐藤忠勝

#### 2 主な参考文献・資料

特になし